

ガスタービン等で水素を燃焼させてエネルギーを発生させる 水素発電の実証が進められています

主な水素発電の実証事業

	水素コージェネレーションシステム(CGS) 活用スマートコミュニティ技術開発事業 (経済産業省、新エネルギー・産業技術総合開発機構)	水素混焼発電機システムの実証 (産業技術総合研究所)
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 1MW級水素CGSを設置し、電気・熱・水素の効率的な運用を目指す統合型エネルギーマネジメントシステムを用いた実証を実施。 ▶ 2018年4月に、世界で初めて市街地における水素燃料100%のガスタービン発電による熱電供給を達成。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 再生可能エネルギー電力で水素を製造し、化学変換、貯蔵、輸送を経て、水素混焼発電機システムで発電するサプライチェーンの技術実証を実施。 ▶ 発電出力300~500kWで合計1000時間以上の水素混焼発電機システムの稼働実績を達成。
主体事業者	大林組、川崎重工業	日立製作所、デンヨー興産
実施場所	ポートアイランド (兵庫県・神戸市)	福島再生可能エネルギー研究所 等 (福島県・郡山市)



出所：
新エネルギー・産業技術総合開発機構公式HP、産業技術総合研究所公式HP